

〔目的〕中国茶は、生産地区や製造方法によって数多くの種類を有し、消費者ニーズの多様化とも相まって多種多様なものが輸入され、嗜好飲料として我々の食生活に浸透してきている。また、近年では抗腫瘍性、抗酸化性、コレステロール濃度上昇抑制作用、抗菌活性など多くの薬理効果があることが知られようになり、保健飲料としての面も持つようになってきている。今日の健康志向を考える時、需要はさらに伸び、中国茶の飲用はますます増加するものと予想されることから、各種成分の検討は重要だと思われる。

特に、重金属はその種類や含有量によって有益にも有害になり、人体への影響も大きく、安全性はもちろん、各元素の供給源としての可能性も探ることができるものとする。

今回、市販中国茶を用い、各種元素について検討を行い、若干の知見を得ることができたので報告する。

〔方法〕市販されている中国茶の茶葉20gを用い、衛生試験法による乾式分解法により試料溶液を作成した。また、一部の中国茶については浸出液を作成した。これをジャーレルアッシュ製の原子吸光装置を用い、Mg, Mn, Fe, Zn, Ni, Ca, Cdについて定量した。

〔結果〕茶葉中の各元素の含有量は、Mg: 1200~4380 μ g, Mn: 421~1660 μ g, Fe: 104~981 μ g, Zn: 21~102 μ g, Ni: 2.23~21 μ g, Ca: 855~5250 μ g, Cd: 0.15~0.5 μ gであった。茶浸出液中の各元素の含有量は、Mg: 8.30~22.79, Mn: 2.34~10.57 μ g, Fe: 0.10~0.49 μ g, Zn: 0.17~0.56 μ g, Ni: 0.03~0.20 μ g, Ca: 0.33~4.75 μ g, Cd: 検出限界以下であった。